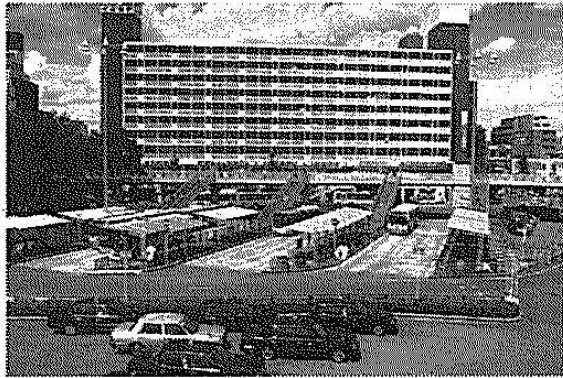


## 茨木市

# JR茨木駅西口周辺再整備

# 9月補正に基本構想費

大阪府茨木市は、12年度9月補正予算案にJR茨木駅西口周辺の再整備のあり方を検証する基本構想策定業務の経費を計上した。1970年開催の大阪万博に合わせて整備された同駅西口周辺1～1・5分の計画を、現在と今後のニーズを見据え探っていく。9月補正予算が成立後、10月から11月にも同業務の委託先を決め、本年度中に複数の再整備案を検討し、市が地元関係者や市議会、警察などに提示する「たたき台」を策定したい意向だ。



JR茨木駅の西口周辺

同駅(駅前1丁目)は、JR西日本東海道本線(京都線)の快速停車駅の一つで、大阪万博(会期70年3月14日～9月13日)開催に先立ち、69年10月橋上駅舎として整備され、駅西口(西駅前町)も同時期に現在の姿になった。

駅前(駅前1丁目)は、駅の通過交通量は多く、朝夕は自動車やバスの渋滞が慢性化しており、抜本的な対策が求められているのが現状。万博開催時に建設された「茨木ショッピングタウン」やイズミヤ茨木店などで構成した駅前再開発ビルも老朽化が進行している。

このため同市では、まず駅前広場の再整備を検討することになった。本年度は再整備のさまざまなパターンを検証、バスターミナルの抜本的な配置変更やペDESTリアンデッキの新設などの可能性も探り、市としてのたたき台をとりまとめる。来年度以降は、庁内検討を重ね、再整備の実施案を絞り込んでいく方針だ。